

# ご近所の お医者さん

□  
497  
□

清名台外科院長 **市川剛さん** 一貝塚市

## 苦痛の少ない大腸検査

肛門科を掲げる当院には「お尻を拭くと血が付きます」という患者さんが毎日のように来院されます。実際には、いぼ痔や切れ痔が原因のことも多いですが、大腸がんが見つかることもよくあります。当院でがんが見つかった患者さんの内

訳をみると、全体のほぼ半数が大腸がんでした。実際、大腸がんは2018年の統計で、臓器別罹患数(予測)で1位、死亡数でも2位であり、今後さらに増加することが予想されています。

一方で、大腸がんは早期発見できれば、根治が可能です。しかし、発見が遅れると進行がんになることが多く、早期発見には大腸がん検診を受けることが大切です。しかし、諸外国に比べて低い受診率が問題になっています。

## がん検診受診率向上を

海外では既に大腸腫瘍の検査法として強く推

奨られています。日本の大腸がん検診ガイドラインで、現時点では推奨検査になっていませんが、2012年には、検査に公的な医療保険が使えるようになり、大腸カメラ以外の選択肢として選ばれる機会が増えています。

全国平均で約40%の受診率しかなく、大阪府は30%未満しかありません。理由として、一次検診(便潜血検査)では忙しさを自分は大丈夫という思い込み、二次検診(精密検査)では羞恥心や、大腸検査は苦しいという認識が挙げられます。

そこで昨今、苦痛が少ない検査法として大腸CT(コンピューター断層撮影装置)が普及しつつあります。お尻から炭酸ガスを注入し、大腸を拡張さ

せてCTを撮るだけです。大量のCT画像を3次元構築し、大腸カメラと類似の3D画像を作成します。検査前に大量の腸管洗浄液を飲む必要もありません。検出精度も、6mm以上の隆起型病変であれば、大腸カメラに比べて遜色がないといわれています。

日本は内視鏡技術が進んでいる一方、大腸CTの普及は発展途上ですが、



2人に1人ががんになるといわれている時代に、最も多い大腸がんの検診はとても重要です。まずはお手元に届いている市民検診や会社の健康診断のご案内を探してみませんか。